

令和2年度 第1回 くるめ支え合うプラン推進協議会 議事要旨

開催要領

- 1 日時 令和2年8月24日（月） 14時00分～14時50分
- 2 会場 久留米市総合福祉センター（2階大会議室）
- 3 出席者 委員20名
佐藤（美）委員、江頭委員、豊福委員、坂井委員、縄崎委員、
橋本委員、藤野委員、河口委員、村井委員、矢野委員、森山委員、
原口委員、高田委員、菊池委員、永野委員、刈茅委員、濱崎委員、
佐藤（寿）委員、田端委員、渡邊委員
- 4 欠席者 委員5名
有川委員、堤委員、津野委員、窪田委員、内藤委員
- 5 傍聴者 なし

次第及び議事要旨

- 1 開会
- 2 委員紹介
- 3 趣旨説明
- 4 会長及び副会長選任

【決定事項】

○互選により、会長は濱崎委員、副会長は江頭委員に決定

- 5 報告事項

(1) 令和元年度第6回協議会議事要旨について

(2) 重層的支援体制整備について

【主な質疑応答等】

委員：分野毎の支援に慣れている中で、今まで対応できていない課題も含め、
包括的に支援していくイメージがわからない。

事務局：重層的支援体制の整備により、これまで各分野のサービスでは対応でき
なかった「制度の狭間の課題」も解決できるようになると認識している。
どのような相談窓口にするかは、各市町村がその実情に応じて決めてよ
いことになっており、窓口の一本化でも、既存の窓口の連携強化でもよ
いとされている。今後検討が必要である。

委員：「制度の狭間の課題」というものをどう捉えるのか。

重層的支援体制整備は、今後、議論していくという理解でよいか。

事務局：「制度の狭間の課題」は、現行の制度の中では対応できていないということなので、見えていない課題であると認識している。これに対応していくためには、公的な相談支援体制の拡充だけでなく、地域の中で見えている困りごとを地域から相談支援体制につなげる仕組みも必要だと考えている。また、今、支援が届いていない人へどう支援を届けるかという、アウトリーチの仕組みも必要だと考えている。

これらの体制・仕組みについては、これから、この協議会でも議論してもらいながら整備していくことになる。

会 長：支援の網を何重にも重ねて、体制を充実させていく必要がある。その中で、専門職ではない地域の人たちも関わりながら、専門職と地域の人たちが連携して支援していくことが、地域福祉を推進する上で重要である。

6 協議事項

(1) くるめ支え合うプランの進捗状況について

【主な質疑応答等】

委 員：くるめ支え合うプランのわかりやすい版はよくできている。

外国人にも分かりやすいよう、英語版があるとよい。

コロナ禍でDV・性暴力が増えているので、相談先を追加できないか。

事務局：ご意見を踏まえ、検討したい。

委 員：前回の協議会で、プランの内容が知的障害者にも伝わるようにとお願いしたところ、今回、当事者と協働してわかりやすい版を作成されたことに感謝する。

会 長：WEBコラムはどのくらいの頻度で公開するのか。

事務局：月に2回程度を予定している。プランに掲げる13の取組みのコラムに加え、旬な内容のコラムを提供したいと考えている。

委 員：わかりやすい版の小中学生への周知はどのように考えているのか。

事務局：市公式LINE等を活用して、多くの人に周知したい。

また、社会福祉協力校との連絡会議等を通じて、学校へ情報提供したい。

委 員：くるめ支え合うプランは、市と市社会福祉協議会が一体となって策定したが、校区福祉活動計画の策定にあたって、校区コミュニティ組織と校区社会福祉協議会の役割分担はどのように考えているのか。

事務局：前回の校区福祉活動計画策定時は、校区社会福祉協議会が中心となって策定した校区が多かった。現在は様々な分野の人々が集まった支え合い推進会議が校区毎に設置されつつあるので、今回は、校区社会福祉協議会だけで策定するというにはならないと思っている。

どこが主体となって策定していくかは、市社会福祉協議会のコーディネーターも一緒になって各校区と考えていきたい。

7 その他

○今年度の協議会は、あと1回開催予定。

8 閉会